

洋書輸入協会会報

VOL. 4

NO. 5

(通巻37号) 昭和45年5月

理事会報告

4月23日(木)

- (一) 総会議事進行に関する打合わせ。
- (二) 通関委員会より、通関協議会総会状況報告。
- (1) 洋書輸入協会が副会長に指名された件。
- (2) 会報「東京外郵」一括購入が廃止され、準会員制度となった件。
- (三) 総務委員会より。 ホンリゅう・コーポレーション脱会届受領の件。
- (四) US山川氏外遊報告。
- (1) Book Development Council の Mr. Harris は退職し、B.D.C. は Book Publishers' Assn. に吸収された形となっている。
- (2) 新旧ペンスの換算率は B.P.A. より決り次第報せてくれるとのことであるが、英国において一般に使用されている換算表は下記の通り。

NEW MONETARY TABLE

PENCE	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
NEW PENCE	$\frac{1}{2}$	1	1	$1\frac{1}{2}$	2	$2\frac{1}{2}$	3	$3\frac{1}{2}$	4	4	$4\frac{1}{2}$
SHILLINGS	1/-	2/-	4/-	6/-	8/-	10/-	12/-	14/-	16/-	18/-	20/-
NEW PENCE	5	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100

- (3) 米にて McGraw 社を訪問。協会代表として訪問の由を明言し、日本側が欠号・未着問題で困っている現状を指摘し、善処方を要望した。
- (4) 米 Leasco 社を訪問。オーバーシーズ社の総代理店問題の調査。
- (五) 関西支部長丹羽氏報告及び問題審議。 関西支部地区に新たに会員が出先機関を設けた場合は、原則として自動的に関西支部会員となる旨の関西支部規約の再確認。

定時総会報告

4月23日(木) 於日本出版クラブ 2時～5時。

第一段 昭和44年度報告。

- (一) 出席34社 委任状16社 計50社 (総数62社) により総会成立。
- (二) 議長 中田理事長代理、副議長 紀伊國屋書店相良氏、洋販渡辺氏 (兼司会) 指名。
- (三) 理事長代理挨拶。
- (四) 新入会員 (株)雄松堂書店新田満夫氏の紹介並びに同氏の挨拶。
- (五) 理事会報告。(丸善・関口氏)
- (六) 通関委員会特別報告。(紀伊國屋・相良氏)
- (七) 各委員会報告。(各委員長)
- (八) 昭和44年度収支決算報告。(丸善・関口氏)

(ウ) 監査報告。(竹内書店・竹内氏) 決算承認。

(エ) 関西支部報告。(緑書房・丹羽氏)

第二段 理事、監事の選挙

続いて45年度理事及び監事の選挙に移り、委員長より立会人に内外交易山県氏、福本書院福本氏を指名し開票の結果、次の通り理事11社、監事3社が選任された。

理 事	44 票	綏 紀 伊 國 屋 書 店
	44 //	日本洋書販売配給株式会社
	39 //	日本出版貿易株式会社
	35 //	丸 善 株 式 会 社
	35 //	綏 東 光 堂 書 店
	31 //	綏 国 際 書 房
	30 //	綏U.S.エシァティック・カンパニー
	24 //	三洋出版貿易株式会社
	23 //	綏 極 東 書 店
次 点	22 //	海外出版貿易株式会社
	22 //	綏 竹 内 書 店
関西支部推薦 理事		(有) 緑 書 房 (支部長)
		綏 梅 田 書 房
監 事	22 票	綏 南 江 堂
	20 //	綏 竹 内 書 店
次 点	10 //	内外交易株式会社
関西支部推薦 監事		丸田洋書貿易株式会社

(イ) 新理事会開催、理事長互選の結果丸善を再選。

才三段 昭和45年度について

(一) 旧理事海外出版三原氏、新理事極東書店一条氏挨拶。

(二) 昭和45年度予算案の説明。(丸善・関口氏) 承認。

(三) 各委員会事業費予算の説明。

(四) 質疑応答。総代理店リストにつき、洋販栗原氏より広告掲載の依頼。

才四段 懇親パーティ。6時30分終了。

理 事 会 報 告

4月27日(月)

(一) 総会関係事項の事務処理。

- (1) 事務局長俸給ベース・アップの件。
- (2) 女子事務員雇傭に際しての俸給額の件。
- (3) 繰越金中割興にて30万円購入の件。
- (4) 大和銀行預金残処理の件。
- (5) 理事交代に伴う会費変更の件。

(二) 関西支部長丹羽氏よりの要望事項。

- (1) 各委員会は、更に詳細に委員会活動状況を連絡して貰いたい。
- (2) 懸案である大阪で理事会を開く件を実現して貰いたい。

(三) 委員会構成メンバー変更の件。案を検討、作成。一覧表として配布して意見を求めた上決定することとする。

(四) 委員会活動内容の検討。

- (1) 価格査定委員会。次回委員会開催時に、新委員長を中心として検討を加えることとする。
- (2) 雑誌欠号委員会。名称を雑誌補充委員会と変更し、活動内容も若干変更を加える件、新委員長を中心とし検討することとする。

汽 車 の 本

篠 原 正 瑛

中年以上の日本人ならば、おそらくだれでも、遠い幼年時代の追憶のなかに、『汽車ポッポ』と切りはなすことのできない思い出のいくつかを、しっかりと懐かしめているにちがいない。その『汽車ポッポ』すなわち蒸気機関車も、いよいよあと3、4年のうちに、国鉄の全路線から完全に姿を消してしまうことになった。すでに、イギリス、アメリカの鉄道では蒸気機関車は廃止されてしまったし、先進諸国のなかでは電化およびディーゼル化の完了が比較的長くかかりそうな西ドイツの国鉄でも、おそくとも1970年の後半には、蒸気機関車は一輛も残らずに消え去ってしまうはずである。

以上のような事情が反映してか、日本でも、アメリカでも、ヨーロッパでも、数年以前から出版界に一種の『汽車の本のブーム』ともいべき現象が起こっている。いまここでは、日本のことは省略して洋書についてだけ述べるが、汽車、つまり蒸気機関車の本をもっとも多く出版しているベスト・スリーは、イギリスとアメリカと西ドイツとである。そのほか、数は少ないが東ドイツやスイスでも蒸気機関車にかんする貴重な本を出している。

一般に、この種の本は一部部数売り切ってしまうと、絶版になる場合が多いから、よい本が出たら、すぐ手に入れておいた方が安全である。現に、私が10年ほど前に買った蒸気機関車の本（西ドイツ、東ドイツ、スイスなどで刊行されたもので、その当時の新刊書である）は、現在ではそのほとんど全部が絶版で、古本で探してもなかなか手に入らないし、万一、入手できても、定価の数倍という高値である。一例をあげると Leopold Niederstrasser という人が著わした Leitfaden für den Dampflokomotivdienst がそれで、これは、西ドイツの国鉄で蒸気機関車の機関士の『虎の巻』とされている、いわば専門書だが、きれいな図面がたくさん入っていて、一般の汽車ファンにとっても有益な本である。

この本は、10年ほど前には、洋書専門店で頼めば2,400円で簡単に取り寄せてもらうことができた。ところが、それから2、3年後、この本は絶版になった。そして、それからさらに2、3年後には、古本市場でこの本の値段は2倍以上にハネ上っていた。今日では、おそらく3倍以上になっているであろう。しかも、1冊の出物に何十人もの希望者が殺到するというありさまで、入手はきわめてむずかしい。

蒸気機関車にかんする書物にも、いわゆる稀覯本といわれるものが少なくない。私も何冊か所有しているが、そのなかの『珍品』は P. M. G. de Pambour: Theoretisch-praktisches Handbuch über Dampfwagen (1841), Hundert Jahre Deutsche Eisenbahnen (1935), 125 Jahre Henschel (1935) などであろう。一番目の本は、フランス語の原典のドイツ語訳で、蒸気機関車の専門書としてはドイツで最初に出版された本である。二番目の本は、ドイツの鉄道開通100年記念に当時のドイツ国鉄から発行されたもので、ドイツの鉄道の歴史を知るためにも不可欠な文献である。三番目の本は、ドイツ最大の機関車メーカーであるヘンシェル・ウント・ゾーン会社が、創立125周年を記念して社史として編纂した豪華本で、今日これを原本そのままの複製本にして出すとすれば5万円位の定価になるそうである。

以上、三冊の本はいずれも10年ほど前、西ベルリンの古本屋の目録に出ていたのを、極東書店に頼んで取り寄せてもらったもので、値段はたしか、一番目が1,700円、二番目が2,300円、三番目が5,400円だったかと思う。今日では、5倍の金を出しても、まず入手不可能である。かりに、入札で売りに出したとしたら、おそらく10倍以上の高値をつける希望者が何人も出てくるであろう。もちろん私は、たとえ100倍の高値をつけられたとしても、手放しはしないが。（評論家）

洋書こぼれ話

終戦後の洋書輸入再開の経過 (続)

石川 実

民間の海外通信の許可

前にも一寸ふれたが終戦後禁止され続けて来た民間の海外通信が昭和22年3月に至って漸く許可されることになった。長い鎖国から開放された思いで業者は直ちに夫々戦前の海外諸国の取引先に出状、健在を伝え、取引再開の希望、目録などの資料の送付依頼など思い思いを書き送った。それから通信の交換は始まったが最初の返信が戦前の債務の取立てであったというものもあり、先方の為替管理の厳しさを知ることになったのである。

米国雑誌の入荷

われわれが洋書特に米書の輸入に狂奔している間に、思いもよらず少量ではあったが米国雑誌を入手出来ることになった。

それは昭和22年4月放出版物として、Lifeの1月号から3月号まで各1,000部ずつ教文館に入荷し、会員の希望者に分配された。単価は12円50銭であった。その後、円払で先方指定の米国銀行の口座に払込む方法で当局の許可の下にLife 1,000部が教文館、そしてColliers Weekly 1,500部が丸善により同12月に夫々相前後して輸入され、会員に配付された。売価Lifeは12円50銭Colliersは7円50銭であった。長い間入手出来なかっただけに一般から大いに歓迎され一時は店頭列をなした程であった。この他にもハワイで二世によって発行されていた英文「極東画報」が丸善によってColliersと同様の方法で輸入された。然しこれ等は一般の需要をみたすには余りも少量であり、また輸入方法が変則であったのでいずれも長つづきはしなかった。

この米国雑誌の輸入と配給が後日協会にとって思わぬ結果をもたらすことになった。

米国出版社代表の来日

昭和23年4月に紐育のMcGraw-HillのMr. Jesupが来朝、通産省次官やGHQの要路者に逢って米書輸入に関する事情を聞き、また取材の種にもしたようであるが、同氏は民間貿易再開後まで滞在し、CIEプランによる米書輸入の際、同社の出版書の輸入に種々便宜を計り、我々業者も大いに助ったのである。

同23年8月にスナイダー社の代表としてMiss Barbara A. Steelが来朝、輸入協会の会員と会談、また通産省、CIE等を訪問、事情聴取と共に輸入の促進を要請してくれたが両氏の来朝から米国の出版事情も好転し、日本への輸出態勢もほぼ出来上り、また当地のGHQの動きの中から輸入再開の時期近しいというようなニュースが先方に伝わり始めたのではないかと察せられ、そろそろ何かの手がうたれるのではないかと期待を持つようになった。

海外出版物輸入協会の代行機関取消しと名称変更

昭和23年8月18日通産省から意外な通達が協会宛に回付された。それは事業者団体法施行規則により政府の指定を取消して協会を閉鎖機関とし経済行為を禁止する。今後は各社にて直接輸入をするようにとの事であった。こういう処置がとられた理由は明らかではないが、この年の始め頃GHQのESS Anti-Trust Cartel Sectionから米国雑誌の輸入・配給について調査を受けたことがあったが、輸入・配給の当事者は丸善、教文館であり、協会は何等の経済行

為はしていないので当方の説明によって諒解が得られたものと思つて気にもしていなかった。ところが、専ら会員にのみ配給したことが、たとえ他に業者がなかったにせよ、事情に疎い係官によって独占禁止法に抵触すると解釈されたのではないと思われる。いずれにせよGHQの命令によって通産省のこの通達となった事は明らかであった。然し協会としては実質的にはさして影響がないので相談の上名称を海外出版物輸入同業会と変更して新たに任意団体として再出発することとした。

英国書の輸入と展示会

これまでGHQの実権は米軍によって握られているとの観点から米国書の輸入を第一として動いて来たが、他国にも働きかける必要を感じ、協会の理事全員で昭和23年11月25日英国大使館にMr. Redmanを訪問、英国書の輸入の斡旋方を依頼した。レッドマン氏は戦前永らく我国に滞在、大学で教鞭をとっていた真の日本通であり、民間貿易はまだ許されていないが英国使節団によつての輸入を考慮してやろうということになった。

其後同年11月25日レッドマン氏より公表があって、かねての請願を了承し、英国使節団として英書を外交行李で輸入し円払を許可する。そして第一回の受付けメ切りを12月13日とするとのことであった。

「後の雁が先に立つ」という言葉があるが、苦勞に苦勞を重ねて来た米書の輸入に先んじて英書の輸入が出来ることになったことは当時に於ては正に早天に慈雨の思いがしたのであった。そしてメンバー中希望者は12月13日までに希望書の輸入申請を了したが注文された英書は翌24年3月末に英国大使館に到着、レッドマン氏に交渉、同意を得て同4月1日から6日まで丸善に於て戦後最初の英国書展示会を開催して一般の閲覧に供し、終了後注文主のメンバーに引渡した。当時のMilitary Rateは1磅が1,080円でUS\$は270円であった。

EROA (Economic Rehabilitation of Occupied Areas) Fundによる米国書輸入

昭和24年2月11日通産省からEROA Fundによる米書輸入許可の発表があった。

既述の通り昭和21年の中頃から日本学術振興会の応援と協力を得て種々工作をして来たが偶々同会の東大理学部嵯峨根博士がGHQに関係深く、昵懇のTechnology SectionのKelly氏に相談をされたところ、EROA Fundを利用したら米書の輸入が可能であろうとのことで、工業技術庁長官、兼重博士に相談をし、そのご斡旋で同庁傘下の全国の研究所、試験所その他の関係先から希望する理工学書の申請を募ることとし、またCIEにも頼み、一方嵯峨根博士の方からも関係筋に協力を依頼していたのがようやく実を結んでこの発表になったと思われる。そこで工業技術庁はそれらの申請をとりまとめ、3月24日書目リストを添えて申請書をGHQに提出したのである。それ等の書籍はGHQの手によって8月に横浜に入港、輸入配給の事務担当者が公募され、6社が応募したのであるが5社の好意ある辞退によって丸善が通関、引取、配給、代金回収そして事務処理後Invoice 3通をGHQに提出、その署名を貰って金額を公団に納入し一切の手續を終了したのであった。当

時の Military Rate は1\$370円であったが売価、手数料がいくらであったか申訳ないが記憶がない。この時の書籍の総数は2,754冊、307タイトル、総額\$14,046.61であった。売価、手数料については工業技術庁の諒解を得ねばならず、またGHQ、通産省のOKもとらねばならず、初めての経験であったが其手数、煩雑、複雑さにはひどく苦勞させられたのである。

フランス書の輸入と展示会

英国大使館の斡旋で英国書の輸入に成功することが出来たので、続いてフランス書の輸入の実現を計ることとし、24年早々理事全員でフランス大使館を訪問、Chazelle氏に面会、フランス書の輸入の斡旋を求めた。最初はフランスは資金がないので英国のような手配は出来ないと断られたが、その後も訪問を重ねて特別の配慮を要請した。同3月1日フランス大使館から英国同様に同使館団として輸入を斡旋しようという申出があり、オ一回の申込メ切は3月24日とのことであった。そこで希望者は期日までに申請書を提出、書籍は5月末にフランス大使館に到着、5月3日より6月10日まで英書同様、丸善で戦後最初のフランス書の展示会を開催した。

民間貿易再開の発表

昭和24年12月1日、外国為替、外国貿易管理法と輸出貿易管理令が、また12月29日に輸入貿易管理令が公布され、25年1月より民貿を再開するとの発表があった。

早速通産省の担当官に洋書の民貿による輸入開始につき照会したところ、商品別に重点的に行われることになるので其時期は未定であるとのことであった。然しながらいづれにせよ民貿による洋書輸入の時期近しと感ぜられるようになった。

CIEプランによる米書の輸入

英仏両国書の輸入が英仏両大使館の斡旋によって変則且つ小額であったが出来るようになったがCIEも民貿開始まで待たずに暫定的処置によって米書の輸入を許可することになった。即ち同25年3月13日通産省よりGARIOA (Government and Relief in Occupied Areas) Fundによる総額20万\$の米書輸入許可の発表があった。そして政府貿易であるので輸入業務代行者を希望業者の競争入札によって決定するという事になった。これはCIEの命令であって通産省はその指示に従ってこの公示をし一切の監督にあたることになった。

丸善、国際書房及び極東貿易株式会社の三社が入札に応じ見積明細書を提出したが当時のCIE並びに通産省の担当係員は洋書輸入業務が如何に複雑で手数や経費がかかるか認識がなくて安ければよいという観点から極東貿易を指定されたのである。噂によれば同社の計上した手数料は3%であったとのことである。極東貿易は戦前どの位の洋書の輸入経験があったかは不明であったが、輸入同業会のメンバーではなく、我々は大きな不安をもたされたが決定された以上この方法に従うより他に方法がないので、メンバー同不安の中に客の注文をとり、前金を添えて4月末から同社に発注を始めたのである。初めの中は少しずつ入って来たが段々と渋滞し始め、注文主からの苦情は日を追って激増し、26年になってからは入荷状態は益々悪化し、協会の理事は度々会社の首脳と会談し善処を求め、通産省及CIEからも厳重な警告が次々と発せられたがその効なく、終に発足一年余にして同社のお手上げということになり、GARIOA Fundによる米書輸入の結末は誠に後味の悪いものとなった。

次の同社の陳謝状と丸善の挨拶状(丸善学鑑昭和27年3

月号掲載)とによって、上記の実情と我々業者がこの問題で如何に迷惑し、難儀をしたか当時の方々はよくご記憶のことであるが其他の方々もご想像願えることと思う。幸に此時期に於ては民間貿易が再開され、未調達はその方に切りかえることが出来たことは不幸中の幸であった。

陳謝状

CIEプランに依る米国図書輸入の件

弊社は連合軍最高司令部民間情報局の御計画による右米書の輸入に関し通商産業省の代行機関(総代理店)として一昨年四月以来取扱書店各位より御注文を受け、之が発注、輸入の業務に従事して参りましたところ入荷状態は頗る不規則且つ不円滑でありまして一年有半以上を経過して未だなお入荷せざるものすら多数あり延引に延引を重ねて今日に到った実情であります。

此間書店各位よりは屢次厳重な御督促、御照会を蒙り、これに対し本業務の特殊性と複雑なる手続を理由に屢々事実に対する回答を致し、殊に昨年三月に於ては六月末日迄の完納を御約束致しましたが偶々政府会計年度の予算切替措置の爲一部外国送金が遅延しましたので、これを理由に六月に到って九月末日の完納を確約申し上げ鋭意之が履行に努力致しました。

然るに最近に到り弊社事務処理の重大なる不始末より各位の御期待に背き御注文の未着分は今後入荷の見込なきことが判明致し終に監督当局の御指令に基き本業務を中止致すの止むなきに到りました事は真に慚愧に堪えません。

かかる結果を招来致しました原因は全く弊社の事務上の不行届と適正ならざる処理の爲でありまして監督御当局並に書店各位、又需要者各位に多大の御迷惑を相掛けましたことを茲に衷心より陳謝致す次第であります。

昭和二十七年一月

極東貿易株式会社

専務取締役、常務取締役、書籍部長連署

書店並に需要者各位

丸善の挨拶状

曩に連合軍民間情報教育局のご計画による政府輸入の方式によってお引受申上げました図書の入荷状況に就きましては爾来政府代行機関たる極東貿易株式会社に対し促進力繁く折衝を重ねて参ったのでありますが不幸にして進捗の見るべきものなく遂に一年有半を経た今日同社の別紙陳謝状の如き始末と相成りましたことは誠に弊社と致しましても全く汗顔の至りでございまして唯々深くお詫び申上げる次第でございします。

就きましては斯く同社がここに代行権を喪失致しました上は弊社と致しましての責務を果す方途として急速なるご下命品の入手こそ緊急事と存じまして勝手ながら既に民貿方式への切替え発注を了え鋭意完納を期して居る次第でございします。

重ね重ねのご迷惑にて何共恐縮の外ございせんが何卒事情特にご諒恕を賜り枉げて今暫らくご猶予を伏してお願い申上げる次第でございします。

昭和二十七年一月

丸善株式会社

かくして代行機関としての極東貿易は業務を停止したが前納してあった代金の返済は不能となったのでこれは監督当局としての通産省の監督不行届であつてその返済は政府によってなされるべきものとして通産省、大蔵省に陳情、百方手を尽して、通産省から前金の総額の支払を受けることが出来たがここに到るまでの理事諸公の並々なる努力は忘れることが出来ない。(以下次号)

海外ニュース

「アクセル・シュプリングー社と ベルテルスマン社の協力体制」

西ドイツのマスコミ界の一大コンツェルンである Axel Springer と、出版社の大グループで、「ブック・クラブ」でも知られる Bertersmann が、書籍の出版部門で将来協力体制をとる方針を3月25日に取り決めた。

これは両社の傘下の各出版社の活動領域を調整し、補完しつつ、密接な協力を行うというもので、グループの各出版社の法的地位や経営者の地位などは何ら変更なく、それぞれの独自性を尊重することになっている。

(Börsenblatt 西独版 1970年4月3日号より)

「アメリカン・エルゼビア社の アメリカ色強まる」

オランダの Elsevier 社が、1962年に同社の出版物のアメリカにおける販売代理店及び輸入業者として設立した The American Elsevier Publishing Company は、依然として本来の機能は発揮しているが、このところ、アメリカがオリジンの科学書、学術書の出版にも力を入れてきている。

アメリカン・エルゼビア社は、1970年に200点以上の新刊書を予定しているが、このうち30点はアメリカのもので

ある。しかも、年末には、11の科学雑誌がアメリカで編集され出版される予定である。更にアメリカ人の著者による本が約200点現在契約されているとのことである。

(Publishers' Weekly 1970年4月13日号より)

「グロセット社がノートン社の 一部を統合」

Grosset & Dunlap は、W. W. Norton & Co., Inc. の児童書部門と高校部門の買収を終えたことを発表した。

同社は、直ちに W. W. Norton 社の児童書及び高校向のタイトルの出版及び販売を開始した。従ってオーダーはすべて Grosset & Dunlap 宛に出さねばならない。掛率は Grosset 社所定のものによることになる。

Norton 社の児童書部門の W. McMorris, A. Diven, F. Grossman は、Grosset のスタッフに加わり、編集及び経営を続ける。

(Publishers' Weekly 1970年4月20日号より)

「マッケイ社がウェブライト社 を買収」

The David McKay Company は、4月17日に Weybright and Talley, Inc. の全株式を取得した。Weybright and Talley 社の全機能は、編集員を除き、すべて David McKay 社に引き継がれることになる。

Truman M. Talley 氏は、Weybright and Talley 社

出版社在日代表の紹介

イースタン・ブック・サーヴィス株式会社

東京都文京区本郷5-29-13
赤門アビタシオン Tel. (813) 4577

赤門アビタシオンの中に、オフィスと、代表各社の刊行書約10,000点を常設展示するショールームを設け、活潑な活動を行っている同社も、創立から現在までの道は必ずしも安易なものではなかったようである。

同社の代表者 R. de Clive-Lowe 氏はニュージーランドの出身。1953年来日して、始めは広島的女子大学に教鞭をとったが5年の後これを辞し、その後 Prentice-Hall, Pergamon Press 各社の極東支社に勤務、独立して EBS の創立を志したのが1964年のことである。創業当時は、神保町の北沢本店の二階の一室を間借りして、終日奥さんと二人だけで頑張った。「アノ頃ハホントウニ辛カッタデスヨ」と流暢な日本語で話しながら、ド・クライヴロウ氏は当時を回顧する。「家内の助けがなかったら今日の仕事は出来なかったでしょう。それに終日一緒に働いていて、鎌倉の自宅に帰るとちゃんと夕食の仕度を整えてくれました。今でも感謝してます。」と手放しで讃めるド・クライヴロウ夫人は、もと Books for Asia におられた水垣さん。内助外助の功をあげて、現在の EBS の繁栄の礎を築かれたわけである。

その当時からスタッフに加わった鳥羽氏等の努力もあって社業は順調に延び、代表する出版社は「Agents List」に記載のもの他に今年から Mouton; Sijthoff の2社が加わった。それら代表する出版社の支社的な業務を行うと共に、学術専門誌への新刊・近刊案内、書評の依頼、さらに翻訳権の取扱い等を行っている。

「私は代表出版社のサラリーマン的駐在員ではない」と語るド・クライヴロウ氏の口からは、洋書業界との密接な協働への希望の傍ら、業界に対する傾聴すべき批判や意見が聞かれた。「新刊を追うのに熱心なあまり、既刊良書の販売努力に欠けるところがありはしまいか。海賊版の問題、さらに複写コピーの問題が今後深刻な影響を投げられると思われるが、業界にはその対策があるのだろうか。過剰サービスの積重ねが、業界自体の首を締めることになりはしまいか」等々。会員に対しては Information や、サーキュラーの要求があれば連絡して欲しいし、又注文分に対するクレーム等も承りますとのことである。

取材の終りに、ド・クライヴロウ氏の趣味を伺ったところ、「さァ、仕事と本は好きだけど、これは趣味とは云えないし——」と口ごもる。傍から夫人が「やきもの、版画、それからインテリアに凝っていて、何か思いつくと夜中でも起き出して室内の模様替えをすることもあります。きれい好きで、その点では仲々やかましい旦那さまです」とのことであった。

の社長兼編集長として止まるが、Victor Weybright 氏は代表取締役の職を辞し、編集顧問となる。McKay 社の社長 Kennett L. Rawson 氏が代って Weybright and Talley 社の代表取締役就任する。

(Publishers' Weekly 1970年4月27日号より)

——紀伊國屋書店提供——

ニ ュ ー ス

- オランダ Elsevier Publishing Company の Vice President, Mr. Louk Bergmans, Jr. 4月中旬来日。
- フランス Hachette 社より Mr. P. Messbauer 4月下旬来日。
- 英国 Associated Book Publishers (International) Ltd. の Group Marketing Director, Mr. & Mrs. Charles Friend 5月上旬来日。
- 米国 Litton Educational Publishing International の President, Mr. E. M. Crane Jr. 5月上旬来日。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店のご案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

㈱ 紀伊國屋書店 ☎ 354-0131
Periodical

EDP Europa Report (24 nos.)

年間予約価 (エヤメール代金とも) ¥ 30,700

㈱ 極東書店 ☎ 265-7531
Dietz Verlag Berlin

Bebel, August, Ausgewählte Schriften in 6 Bänden.

Band 1: 1863-1878. ca. 800 S. mit 16 Bildseiten.

1970. Ganzleinen. ¥ 1,830

Luxemburg, Rosa, Reden und Schriften in 6 Bänden

In Vorbereitung

Sachwörterbuch der Geschichte Deutschlands und der deutschen Arbeiterbewegung. 2 Bände. Zus. ca. 2000 S. mit ca. 900 Abbildungen und ca. 16 mehrfarbigen Karten. 1970. Ganzleinen.

je Bd. ¥ 2,940

Detlev Auvermann KG, Glashütten im Taunus

Zeitschrift für Sozialismus. Monatsschrift für die Probleme des Sozialismus. Herausgegeben von R. Hilferding. Jahrgang 1-3 (36 Nummern). Karlsbad/Prag Oktober 1933-September 1936. Unveränderter Nachdruck 1970. ca. 1150 Seiten in 2 Bänden. ¥ 28,750

Die Linkskurve. Organ des Bundes proletarisch-revolutionärer Schriftsteller Deutschlands. Verantwortlicher Redakteur: Ludwig Renn. Jahrgang 1-4 (41 Nummern und 1 Sondernummer: "Goethe"). Berlin 1929-1932. Unveränderter Nachdruck 1970. 3 Bände. ¥ 23,000

㈱ オリオン洋書部 ☎ 582-8571

Art Directors' Index of Photographs

(英. Chapman, Morris, Williams 社刊)

1970年版

¥ 9,180

㈱ 東光堂書店 ☎ 272-1966

The Graphis Press, Zürich

Photographis '70

¥ 7,200

Artemis Verlag Switzerland

Le Corbusier —Complete Works— Vol. 8 ¥ 8,000

Reinhold Pub. Corp. U. S. A.

Environmental Design

¥ 7,400

Y. Ashihara: —

Exterior Design in Architecture

¥ 3,800

Alexander Koch, München W. Germany

Modernes Wohnen

¥ 1,900

出版社在日代表の紹介

フェファー・アンド・サイモンズ社

日本代表 牛尾三郎

東京都千代田区神田猿樂町 1-2-1

新日貿ビル7階 Tel. (293) 7904

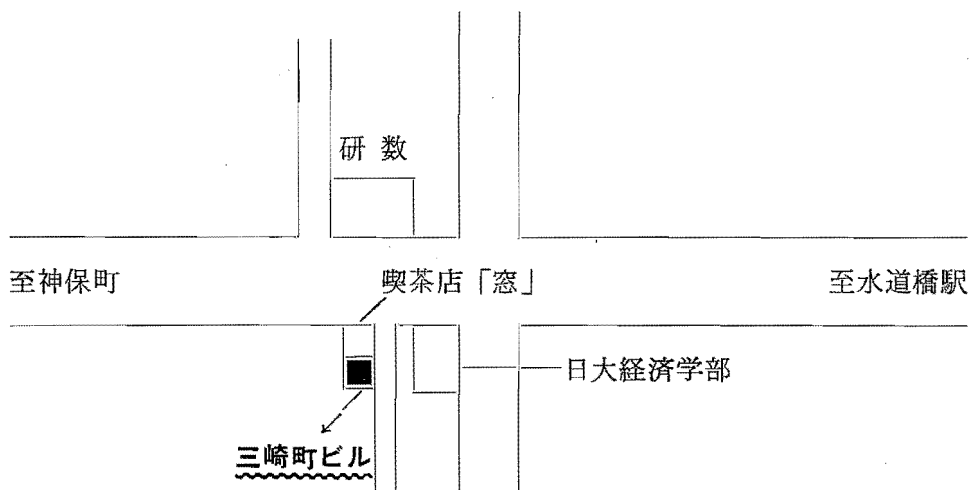
現在、米国有数出版社 200 社あまりを代表し、海外輸出業務代表を営む Feffer & Simons 社は、1955年末結成され、1956年1月業務を開始した。その後、1962年12月米国屈指の大出版社 Doubleday & Co. 社に吸収され、その子会社となり、現在に至っている。

本社は New York にあり、本社従業員数約80名、米国外に11の支店、事務所、並びに10社に及ぶ子会社を持っている。総従業員数は150人を超え、全従業員が、米国内及びカナダを除く全世界地域の出版物輸入先と、代表をしている国内出版社に対し、複雑多岐に亘るサービスを、いろいろな形で提供している。

Feffer & Simons 社は海外書籍輸入販売業界によく知られているが、その複雑化した業務の内容はあまり知られていない。日本の業界に関連するその一面を例記すると、次の様である。

(1) Marketing—市場調査、販売及び促進活動、配給業務。(2) Stocking Operation—アムステルダムの Fleetbooks など。(3) 教科書の Reprint—International University Edition など。(4) Financing—代表している出版社に、その海外へ出荷した商品に対して受取人を代行して支払をなし、以後、海外取引先個々より定めたタームにより集金。(5) 上記の会計業務—月間約25,000の Invoice を取扱う。(6) 海外への輸送の手配。(7) 海外支店及び事務所を通じてのサービス提供。(8) メイリング・リストによる販売促進。(9) 新刊書の卸販売—特定の図書を海外に廉価で提供。などである。その他、子会社 F & S International を通じ jobber の仕事、F & S Distribution を通じ Magazine の配給を行っている。

6月1日より
MACMILLAN JAPAN OFFICE
 開設！



今後共一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます

営業時間 9:30 AM — 5:30 PM (週 日)

9:30 AM — 3:00 PM (土曜日)

但、7月、8月中の土曜日は休業いたします

マクミラン・ジャパン・オフィス

代表 田 所 義 丸

東京都千代田区西神田1の3の6

三崎町ビル三階

電話 (292) 8722

新刊、既刊のサンプルを
 豊富に取りそろえてあります
 どうぞお立寄り下さい

昭和45年5月 通巻第37号 洋書輸入協会

編集者 寺 久 保 一 重

☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1—15—5 藍沢ビル302号室

☎ 271—6901

☎ 530 関 西 支 部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル

☎ 371—5329